

## 今週のメニュー

■ [トピックス](#)

- ◇ “エコプロダクツ2015”に出展！  
－塩ビ（PVC）ブースをご紹介します－

■ [随想](#)

- ◇ 小笠原紀行（番外編）－与那国馬のふるさと与那国島－  
上智大学 地球環境学研究科 織 朱實

■ [編集後記](#)

## ■ トピックス

- ◇ “エコプロダクツ2015”に出展！  
－塩ビ（PVC）ブースをご紹介します－

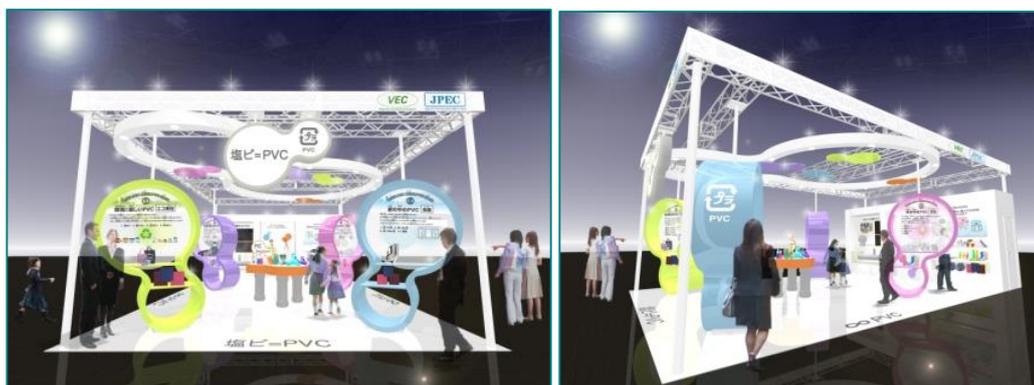
日本最大級の環境展示会エコプロダクツ2015（(社)産業環境管理協会、日本経済新聞社主催）が12月10日(木)から12日(土)までの3日間、東京ビックサイト東1～6ホールで開催されます。今年の出展者数は700社・団体、入場者数は16万5千人が見込まれています。

1999年にスタートした同展示会は17回目の開催となりますが、今年のテーマは「わたしが選ぶクールな未来」です。現在パリで開かれている「気候変動枠組条約国会議（COP21）」では、2020年以降の温室効果ガス排出量削減に関する新たな枠組みを議論しています。この新たな枠組みがスタートする2020年には東京オリンピックが開催されます。世界有数の環境技術を持つわが国にとって、環境先進都市東京の取り組みや先端技術を世界にアピールする絶好の機会になるでしょう。また環境問題にとどまらず、持続可能な社会づくりに向けたソリューションを世界に示すことも日本に求められる役割です。

塩ビ工業・環境協会（VEC）と塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）は、過去8回連続して出展し、PVC製品の環境性能やその優位性と、新たな可能性を訴えて参りました。9年連続出展になる今年は、「身近なエコ素材 PVC で安心・安全・快適な社会の実現」をコンセプトとして、長寿命・リサイクル性能で省エネ・資源節約の特長を持つ塩ビ製品が、「安心」、「安全」、「快適」、更には「防災」の分野でも日常生活の中で大きく貢献しているかを訴求します。

今年度の企画ブースは2つのサークル(円)をつなぎ合わせた形状をキーシンボルとし、塩ビの柔軟性の高い素材であるというイメージをオブジェクトとし、「安心」、「安全」、「快適」、「防災」それぞれのコーナーを設け、その分野で貢献しているPVC製品を展示します。また、ブースのセンター、奥のエリアには“PVC Design Award”の受賞作品を展示します。

私どものPVCブース（東5ホール、No. 007）へのご来場をお待ちしております。詳しくは、[エコプロダクツ2015](#)の案内をご覧ください。



VEC ブース企画案

## ■ 随想

### ◇小笠原紀行（番外編）－与那国馬のふるさと与那国島－

上智大学 地球環境学研究科 織 朱實

小笠原紀行ですが、今回は番外編として先日、台風 21 号が 9 月に直撃し、その爪痕もまだ痛々しい与那国島に、11 月あたりに訪問した様子をご紹介しますと思います。「小笠原」も、「沖縄だよな？」という反応が見られるようにまだまだ知らない人も多いのですが、「与那国島」もそれ以上に一般には馴染みのない島かもしれません。

小笠原の父島より少し大きい、面積 28.95km<sup>2</sup> の島で、人口も小笠原父島が

約 2000 人に対して、1745 人。日本の最も西に位置する島で、最西端が西崎<sup>いりざき</sup>。ここから沈む夕日が日本で一番最後に沈む夕日ということになります。日本の一番西ということもあり、台湾まで、ほんの 111km。天気の良い日は台湾の山々を遠く仰ぎ見ることができるそうです（私が訪問していたときは残念ながら、曇っていたので見ることはできませんでした）。



「Dr.コトーの診療所」ロケ地

観光的な観点からは、「Dr.コトーの診療所」のロケ地として使われたこと、1986 年にダイバーによって発見されたという海底遺跡のようなもの（古い石切り場が沈下したのか？昔の祈禱場だったのか？なぞはまだ解明されていません）が有名かもしれません。また、モスラのモデルともいわれる日本一巨大な蛾、ヨナグニサン（アヤミハビル）が生息する島でもあります。

しかし、今回の訪問の目的は、日本在来馬の「与那国馬」！私にとって、「与那国島」といえば、「与那国馬」でした。初めて与那国馬に逢ったのは、3年前沖縄那覇の百名ビーチ、海の中に一緒に入る海遊びをさせてもらい、日本人にとって親しみやすい体形で（サラブレッドは背が高く、やはり少し怖いですが）、大人しく素直な性格に魅了されましたが、そのあと再会することもなく月日が経っていましたので今回の訪問の話には、「与那国馬のふるさとがみられる！」ともうすぐに飛びつきました。



草を食む「与那国馬」

みんなのちまんまの物語をつむぐ  
与那国馬との未来を考える  
10月31日(土) 19時〜 ところ: 比川公民館  
司会: 高田 達一氏 (拓殖大学 海洋学専攻教授)  
講師: 藤 永寛氏 (上智大学大学院教授)  
『世界自然遺産 小笠原の観光・文化資源活用研究報告』  
監訳: アグネス・ヒューズ (人権部 部長 (多国籍関係担当))  
『オナグニウマふれあひ広場』  
原典: 植松 (『高田年報』 『はしつた』 島といふ) 監訳)

11月1日(日) 14時〜16時30分  
与那国馬とビーチクリーン @ 比川浜  
16時30分〜18時30分 ところ: 比川小学校  
日曜町民馬あそび楽馬会 (協力: ふれあひ広場)  
どらなんちま ちまんま 広場 Part3

11月訪問の目的は、「与那国島の魅力を、与那国馬という観点から見直してみよう！」というもので、島の人たちと島外の人（私と今回のコーディネートの拓殖大学の奥田先生）で、まったり話し合おうというものでした（素敵なビラのイラストは、『馬語手帳』（カディブックス 2012年）の作者河田棧さんによるもの）。多くの離島と同じように、与那国島も過疎化に悩み、いかに島を活性化するかが大きなテーマになっています。今回の「ゆんたく会議」は、そうした島の状況をみんなで話し合っ、与那国馬を切り口に島の魅力を自分たちでも発見していこうという島内の若手ボランティアによる企画です（発起人の Tetsu さんは、与那国島で美味しいロールケーキを販売しているカフェのオーナーでもあります）。

今回の与那国島訪問で、いかに与那国馬が日常生活の中に溶け込んでいるのかを実感することができました。柳田國男『遠野物語』に馬にまつわる話が多いように、日本では馬と密接した生活をしてきた地域がいくつもあったのですが、今なおこの与那国島のように馬が島の風景として溶け込んでいるところはないように思います。与那国馬は、「与那国島という離島中の離島に生きてきたため他の種類の馬との混血がなく、在来馬のなかで最も純度が高いと言われています。農業の機械化などにより、その数は年々減り続け、絶滅の危険性が指摘されています。（[NPO ヨナグニウマふれあひ広場の HP](#) より）」1969年に与那国町の天然記念物に指定されています。

昔は、農耕馬として使用されていたようですが、現在はそうしたこともなく主に観光用、ということだと思のですが、牧場の中を放牧されており、自由に草を食んでいる姿があちらこちらで見られます（牧場の中にあとから道路が通されたため、普通に馬がいるので初めて見るとびっくりします）。その中には、所有者が明確ではない、「野良(?)馬」もいるようで、毛艶が悪かったり、ぱさぱさしているので、すぐわかります。また、馬を、自宅で飼っている人も普通におり、『お母さん馬が亡くなって、野良になりそうな仔馬を引き取った』とか『家族4人で、一人一頭持っている』などというお話も聞きました。馬の維持費は、家の庭、あるいは近くに牧草地があれば月1万円もかからないそうです。

NPO ヨナグニウマふれあひ広場さんは、与那国馬と島民のふれあいを広げようと、乗馬会などを定期的にボランティアで開催し、小学校の運動会でも馬の競技が披露されたりしています（驚きやすく、繊細な馬を小学生が運動会という騒がしい場所で、上手に引きながら競技をしているビデオには本当に驚かされました）。



台風の漂着ごみの収集で働く「与那国馬」



小学校での乗馬会

シンポジウムの翌日は、台風の漂着ゴミで散々たる状況になっているビーチクリーニング。みんなで、集めた漂流ごみを、2頭の与那国馬が分別場所まで引いていくというイベントも行われました。馬が引く橇も手作りで、大勢の参加者のもと、2時間程度頑張っただけでビーチもすっかり綺麗になりました。そのあとは、小学校の校庭で乗馬会、子供たちが馬と自然に接している様子が印象的でした。馬が島の風景になっている島が、与那国島です。

今回の記事では、台風の被害の状況はお知らせできませんでしたが、屋根が丸ごと飛んでしまった若いお母さんのお家や、営業を停止してしまった製塩所などまだまだボランティアの助けが必要なようです（台風21号被害、ボランティア、与那国島で検索していただければ連絡先がでてきます）。本州から遠く離れた最西の島、与那国島に少しでも関心を持ってもらえればと思います。私も、また機会がありましたらメルマガでも与那国島の別の魅力をご紹介できればと思います。

⇒ [メルマガ・バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

PVC Design Awardも5回目を迎えました。表彰式、東京での展示会が終わり一安心しています。

展示会は例年デザイナーなら知らない人はいないAXISビルで行っています。AXISビルはぷらっと寄ってみた海外の方、買い物途中の女性など様々な方が来られます。色んな出会いがあるのもこのビルで開催する面白さだと思います（リマル）

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)、● [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)

